日刊スポーツ
2008年(平成20年)4月21日 月曜日 7版★ (24) 社会

世紀の発明!? 笑い測定機

研究続けて30年 関大 木村洋二教授

30年間「笑い」の研究に取り組み、ついにその度合いを数値化する「笑い測定機」を開発した個性派学者がいた。関西大社会学部の木村洋二教授(60)。本当に笑った時に起きる横隔膜周辺の電位変化から測定した笑いの「量」を、「アッハ(aH)」という単位で表す。「愛想笑い」を見抜いたり、健康に役立てたり、審査に使う「アッハグランプリ」開催など応用はさまざま。人類で初めて、科学の手で「笑い中枢」の実態を明らかにし「アッハ革命」を起こすと意気込む。

きっかけは…

木村教授が「笑い」の研究を始めたきっかけは、約30年前の「ある体験」にさかのぼる。山小屋で友人らとキノコ鍋を食べた時、なぜか突然、笑いが止まらなくなった。大笑いは約3時間続き、約1週間、横隔膜が痛かったほどだった。

木村教授 ワライダケを食べたのか…今でも原因は分かりません(笑い)。でもその大笑いをした時、人生観が変わったんです。笑いというのは、パソコンのリスタート(再起動)のように人生を「初期化」してしまうことと気付いた。失敗しても、笑ってしまえばもう1回、脳の回路を再起動できるんです。

その後「笑い」の研究に没頭。82年に「笑いの統一理論」という論文を学術誌に発表した。その理論は、脳の中に「笑いの中枢回路」があると仮定。笑いとは「ズレて→ハズレて→ヌケて→アフレる」という4段階を経るというものだ。

木村教授 例えば教授が歩いててバナナの皮を踏んで滑ると、笑われる。つまり、一見滑らなそうな教授が滑ったという「ズレ」がまず生じ、それをきっかけに脳の信号のスイッチが混乱して「ハズレ」、教授の威厳などが「ヌケ」て空っぽになり、ヌケたものが脳の笑い中枢に「アフレ」て横隔膜に出力され、笑う?…というわけです。このアフレたものが免疫を高めるなど、医学的効果があることも分かってきた。でも「どのくらい笑ったら健康にいいのか」という笑いの「量」が分からないと科学にはならない。それで「笑いの量を測定できないか」とずっと思っていたのです。

単位はアッハ

30年前の経験以来、本当に笑った時のみ横隔膜が振動するとニラんでいた。そして約1年前「筋電計」を使って、本当に笑う時、横隔膜周辺の電位が微弱に変化することを突き止めた。そして、専用ソフトを入れたパソコンと筋電計などをつないだ「笑い測定機」試作品を完成させ今年2月20日、初めて発表した。本当に笑うと、パソコン画面に表示される波が大きくなるが、つくり笑いは波が変化しないからすぐ分かる。笑いの「量」を表す単位は「アッハ(aH)」とした。

「愛想笑いは見抜けます」

横隔膜周辺の電位変化で「量」認定

パソコンや筋電計をつないだ「笑い測定機」の前で笑う木村洋二教授

木村教授 例えば、課長が何か話すたびに笑う係長に笑い測定機をつければ「愛想笑い」を見抜けます。近い将来、携帯電話サイズまで測定機を小型化し、商品化したい。「健康のため今日はあと何アッハ笑おう」という使い方ができる。「わらおっち」という名称も決めてます(笑い)。

審査員役にも

軽い笑いの場合1秒あたり「0・2~1アッハ」程度で、爆笑すると「5~10アッハ」で笑いの概念が変わってくる可能性もある。まず教授が考えているのは、お笑いグランプリの審査を測定機で科学的に行う「アッハグランプリ」。

木村教授 審査員全員の横隔膜を測定し、「総アッハ数」で科学的に優勝を決めるのが「アッハグランプリ」。開催できれば面白いでしょ(笑い)。

笑った人と目が合うと、わずかに遅れて横隔膜が震えるなど、笑いが「共鳴」することも突き止めた。このほか「1日何アッハ笑えば、免疫力がこれだけ高まる」というデータをとって健康に役立てたり、「共鳴」を利用し、母子が一緒に笑って健康になるプロジェクトも考えている。最終的に描く構想は壮大だ。

木村教授 将来的には「薬を飲むより、吉本の漫才でも見て笑いなさい」となるかもしれない(笑い)。「人生はアホらしいけど楽しいんだ」というのがアッハ哲学。今、人類史上初めて「笑い中枢」を科学の手で明らかにできるとっかかりをつかんだ。「笑いの力」を科学で認識し、万人が手にできたら新しいステージが開ける。それこそ「アッハ革命」やね(笑い)。「笑い」というのは、誰にでも開かれた「ユートピア(理想郷)」への「どこでもドア」。核爆弾より強力な「平和の爆弾」ができるかもしれない。ウワッハッハッハ!

【広部玄】

自称まじめな変人

◆木村洋二(きむら・ようじ) 1948年(昭23)青森県八戸市生まれ。京大文学部卒(社会学専攻)。京大大学院時代、関西大社会学部助手に就任。その後30年以上「笑い」を研究。著書に「笑いの社会学」(83年)、「視線と『私』鏡像のネットワークとしての社会」(95年)などがある。「モノを考えるのが楽しくて、10年に1冊しか本を書かない」。現在「虐殺論」を執筆中。自称「笑いを愛するまじめな変人教授」。現在の専門はコミュニケーション論。テーマは「『笑いの科学』を日本発、世界へ」。

98人物「発掘」